

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	
科目名称 [英語名称]	子どもと自然 [Nature and Children]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750055	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	遠藤 晃				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP3(2) D P3(3)	
授業概要	<p>本講義では「共生」をキーワードにSDGsの視点から、様々な自然環境、生物間相互作用、自然と人間の軋轢と共生などの内容を学ぶとともに、子どもの感性を引き出し、子どもの問題解決能力を育成する教師(大人)の在り方について学び、教師としての素地形成を目標とする。その際、人間の進化から人間という生き物の習性について理解を深める。</p> <p>内容は科学的なものに留まらず、社会や歴史、文化、心理など多面的横断的な視点に立ち、アクティブラーニングと教科横断的な学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿など学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容と、自然のなかの学びを関連づけながら、講義を進める。</p>						
関連する科目	子どもの野外レクリエーション、農業実習、子どもと食育、理科、教科教育法(理科)、環境教育論、環境教育演習、環境問題入門、環境問題演習						
授業の進め方と方法	授業中は、知識を最初に学んだ上で、思考する時間、共有する時間を設け、課題レポートで毎時間の思考を表現する。また、講義の始めに、前回のレポートを教員紹介し、解説を加えることで理解を深める。さらに、実際に野外に出てアクティビティを行うことで、体験・活動と知識・理論を融合させ、実践的な知識へと高めていく。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>到達目標とテーマ:社会的背景(SDGs)、子どもと自然に係る法律、子どもの自然体験の現状</li> <li>自然体験で育まれる力:青少年の体験活動等に関する意識調査(自立性、自己肯定感など)</li> <li>自然のなかで育まれる力:幼稚園教育要領にみられる「自然」、スウェーデン森の幼稚園の事例</li> <li>子どもの自然体験と大人の関わり方:科学的、寄り添い方、褒め方、保育士の在り方(森の幼稚園の事例)</li> <li>科学のプロセスを考える:ルソーの自然教育、「アクティビティ①鳥の観察」&amp;鳥と植物の良い関係</li> <li>ヒトという生物①:好奇心の意味、探究で育む力(総合的学習の事例)、人類誕生(多種共存、絶滅、生残)</li> <li>ヒトという生物②:集団を作る生き物、道具作り、感覚、脳の発達、集団形成、情報伝達</li> <li>ヒトという生物③:自然のなかで適応進化(交雑と遺伝子)、道具作りと論理的思考、睡眠、社会、人種</li> <li>コミュニケーション①:人種差別、自然の癒し効果、「アクティビティ②植物に触れる」&amp;植物同定</li> <li>コミュニケーション②:複数の人が対話しながら同じ目標を目指すことの意味、「アクティビティ③みんなで創る」</li> <li>ヒトという生物④:群れる生物、共感する生物、集団同一性</li> <li>私たちにとっての自然(水について)①:多面的な視点からみる</li> <li>私たちにとっての自然(水について)②:in, about,から for Natureへ</li> <li>私たちにとっての自然:生態系サービスと for Nature</li> <li>まとめ:自然に学ぶ意味</li> </ol>						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが自然と関わる意味と現状を理解する</li> <li>身近な自然を教育に活用する意味・目的を理解し、指導者の適切な関わり方を身につける</li> <li>自然を利用するだけのユーザーに留まらず、for Natureの観点から思考・判断し、行動できる</li> <li>論理的に思考し表現したレポートを作成し、期限までに提出できる</li> <li>生態系の持つ関連性・相互性の概念や進化の視点から生き物としての人間を捉え、教育に活用することができる</li> </ul>						
授業時間外の学修	講義終了後に、復習と予習を兼ねた課題・レポートを適宜課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題については、次回の講義までに準備をしていく(1時間程度)。課題は主にユニバに掲示しレポートもユニバから提出する。不明な点は、担当教員に随時相談すること。						
課題に対するフィードバック	課題、レポート、最終試験等は提出または評価の後、解説をする	評価方法		試験の成績(50%)ならびに課題・レポート(50%)を評価対象とする。			
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。						
参考書	<p>・「ヒトはどのようにして作られたか」山極寿一著 岩波書店 「生態系ってなに? 生きものたちの意外な連鎖」江崎保男著 中公新書 「森林と人間?ある都市近郊林の物語」石城謙吉著 岩波新書 「森の力 -育む、癒やす、地域をつくる」浜田久美子著 岩波新書</p>						
備考	欠席した場合でも、資料を受け取り、課題を確認して期限までに提出すること。						